

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤
専門科目	必修科目	ピアノ実技(含演奏理論・楽曲分析)Ⅰ								●	●	●	●	
		ピアノ実技(含演奏理論・楽曲分析)Ⅱ								●	●	●	●	
		ピアノ実技(含演奏理論・楽曲分析)Ⅲ								●	●	●	●	
		ピアノ実技(含演奏理論・楽曲分析)Ⅳ								●	●	●	●	
		学内演奏(Pf)								●	●	●	●	
		卒業演奏(Pf)								●	●	●	●	
		合奏Ⅰ 集中講義								●		●	●	
		伴奏Ⅰ-1								●		●	●	
		西洋音楽史									●			
		和声初級/和声A								●				
		和声中級/和声B								●				
		対位法								●				
		音楽分析								●	●			
		鍵盤音楽史								●	●			
		古典舞踏								●	●			
	管弦楽概論								●					
	ソルフェージュA								●				●	
	選択科目	合奏Ⅱ								●		●	●	
伴奏Ⅰ-2									●		●	●		
ソルフェージュB									●			●		
室内楽Ⅲ									●		●	●		
室内楽Ⅳ									●		●	●		
共通科目	一般教養科目									●				
	専門基礎科目									●				
	外国語科目									●			●	

ピアノ専攻では、「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者を養成する」という東京藝術大学の使命のもと、以下のような実践的な授業を受講することができます。

実技科目
 (1)個人レッスンを中心としたピアノ奏法の研究と演奏解釈
 ピアノ実技の個人レッスンでは、それぞれの学生の資質や目標に合わせた授業が行われます。音楽家として、多彩で豊かな表現を可能にし、高いクオリティの演奏を行うための演奏技術の向上をはかり、音から何を呼び起こすかという想像力の糧として、音楽作品の様式感や時代背景、構成や和声感等を学びます。また、自らの技術の向上のため、または、それを次世代に伝えるための「メソッド」の研究を行うこともあります。試演会等や、学年末試験、公開の実技試験、学内演奏会などを通じて、「演奏」の実践を積み重ねます。

(2)室内楽、合奏などのアンサンブル授業
 専攻楽器の個人レッスン、1年次・2年次の合奏(弦楽器または管楽器とのデュオ)、伴奏が実技に関わる必修科目です。さらに選択科目として3年次以降に合奏、室内楽の授業が組まれており、ピアニストとして幅広い見識と能力を養います。1年次の前期には「バッハ演奏実習」、後期には「古典派ソナタ演奏実習」が、2年次の後期末にはバッハ作品と、バロック、古典、ロマン、近現代から異なる1つ以上の時代を選択し、約40分のプログラムを演奏する実技試験がそれぞれ課されます。3年次前期には、奏楽堂で20～30分程度の自由に選曲したプログラムを演奏する「学内演奏会」、後期には協奏曲一曲の全楽章を準備する「協奏曲オーディション」が行われます。4年次の12月には、奏楽堂で30分程度のプログラムを演奏する「卒業演奏会」と、同じく30分程度のプログラムを用意して臨む「レパートリー試験」の2回で、4年間の成果を発表します。こうした課題を通して、卒業までにリサイタル複数回分のプログラムが仕上がるようになっていますが、学生個々の資質、研究計画に対応したレッスンにより、幅広い選択肢の中から自由に可能性を追求できるカリキュラムとなっています。

<学部カリキュラム>
 1年次[必修科目]ピアノ実技、合奏、伴奏、西洋音楽史、和声、鍵盤音楽史、古典舞踏、管弦楽概論、ソルフェージュなど
 2年次[必修科目]ピアノ実技、西洋音楽史、和声、対位法、音楽分析、鍵盤音楽史、古典舞踏、管弦楽概論
 [選択科目]合奏、伴奏、ソルフェージュなど
 3年次[必修科目]ピアノ実技、学内演奏、対位法、音楽分析、鍵盤音楽史、古典舞踏、管弦楽概論
 [選択科目]室内楽、合奏、伴奏など
 4年次[必修科目]ピアノ実技、卒業演奏、対位法、音楽分析、鍵盤音楽史、古典舞踏、管弦楽概論
 [選択科目]室内楽、合奏、伴奏など

大学院ではより高度な演奏と理論両面での研究を行い（「器楽実習・楽曲分析演習」）、ピアニストとして音楽性、人間性を深めた自立した音楽家を目指します。修士課程では 50～60 分の自由なプログラムを組み、数名の教員と学生・一般の聴衆を前に演奏する「修士リサイタル」を行うことが義務付けられています。また、その年度の担当教員が開設する、幅広いテーマについて研究する「器楽特殊研究」も必修です。その他、幅広い視野を持ち、関連知識を深めるために、選択科目として「室内楽実習」「歌曲伴奏概論」「伴奏実技演習」や、「原典特殊講義」「他専攻の授業科目」「学部開設授業科目」等を履修することもできます。

学位審査に際しては、論文の提出と、論文のテーマに沿った内容を半分以上含む 40～45 分程度の演奏を行います。論文執筆については、「音楽リサーチ法」「大学院研究基礎（演習）」「大学院論文作成（実習）」「音楽研究基礎」「ピアノ音楽文献研究」などの授業により研究することができます。